

C O R P O R A T E P R O F I L E

 **東洋製罐株式会社**

トップメッセージ

イノベーション
の歴史

製品情報

ものづくりの力

環境への取り組み

研究開発体制

事業拠点

Open The Next Future

「つつむ」技術がひらく、
明日があります。

私たちが100年以上磨いてきた「包む」技術。

世代や地域を超えて、あらゆる人びとの暮らしに寄り添ってきました。

そしてイノベーションの歴史は、これからも続いていきます。

大切に包み続けてきた技術を手に、皆様の豊かな未来を切り拓いていくために。



トップメッセージ

イノベーション
の歴史

製品情報

ものづくりの力

環境への取り組み

研究開発体制

事業拠点



PRESIDENT'S MESSAGE

東洋製罐株式会社は、創業から今日まで“包む”ことの大切さを基本に包装容器づくりに専念し、皆様の価値観やニーズに応えた包装容器を世の中に供給し続けてきたリーディングカンパニーです。当社が提供する容器は、日常生活を支える社会的インフラと同様の重要な役割を担っていると認識しており、私たちには容器を通じて「人類の幸福繁栄に貢献する」という大きな社会的使命と責任がございます。

この使命・責任を果たすために、私たちは、東洋製罐グループホールディングス株式会社の中核を担う事業会社として、グループ各社との密接な連携によりグループシナジーを創出し、企業価値の向上を図ってまいります。

私たちは、お客様に満足いただける、「東洋製罐ならではの」高付加価値な製品やサービスの開発・提供により、社会の発展に寄与すべく、次なる飛躍の実現に向けて邁進いたします。皆様にはより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
本多 正憲

INNOVATION HISTORY

1世紀を超えるイノベーションの歴史

1917年の創立以来、私たちは時代とともに変化する人びとの価値観やニーズに容器で応え続けてきました。

1917



▶ 東洋製罐株式会社
創立

1919



▶ 自動製缶設備による
製缶開始

1969



▶ レトルトパウチ

「120℃以上のレトルト殺菌が可能かつ1年以上の貯蔵寿命を有するフレキシブル・パッケージ」というお客様からのご要望を実現。世界で初めてアルミ箔を用いた「レトルトパウチ」を開発しました。

1970



▶ トーヨーシーム缶

^{すず} 錫資源の枯渇と高騰から、^{すず} 錫不使用の缶として開発されたティンフリースチール（TFS）材の製品です。全周印刷が可能で、ナイロンフィルムで切断面を被覆し、加熱圧着する独自のラミネート方式を採用しました。

1982

▶ 飲料用PETボトル

PETボトルの原料はポリエチレンテレフタレート（Polyethylene Terephthalate）という樹脂で、ポリエステル的一种です。その頭文字をとり、PETボトルと名付けられました。



1990



▶ スティオンタブ（SOT）蓋

タブの散乱が社会的に問題視されるようになり、開けてもタブが缶蓋に残るスティオンタブの生産を業界に先駆けて開始しました。

▶ オキシガード

食品にとって劣化の原因となる酸素を遮断・吸収する保存性に優れた容器。透過酸素を遮断し、さらに容器内の残存酸素を内面側から吸収できる革新的な技術を開発しました。



1991

1994

1995

▶ NS (Non-Sterilant) システム

飲料の常温での無菌充填とPETボトル内洗浄用殺菌剤の不使用を両立させる新たな充填方式を確立しました。



2007

2018

▶ EcoEnd

当社の蓋成形技術と材料メーカーによる材料製造技術を新たに組み合わせることで、リサイクルアルミの使用量を大幅に引き上げ、温室効果ガス (GHG) 排出量を約4割削減した飲料缶用の蓋を開発しました。



2023

▶ ダイヤカット缶

三浦公亮氏が発表した宇宙工学の論文からヒントを受け、缶の形状に応用。スチール缶では、強度の向上によって軽量化と省資源化を実現し、アルミ缶では、立体感のある形状によってデザイン性を高めました。



▶ TULC (タルク)

材料や製造プロセスを根本から見直すことで、生産性と環境保全性を飛躍的に高めた2ピース缶を開発。TULC (Toyo ULtimate Can) は、「究極の缶」という意味を込めています。



▶ 詰太郎

日本酒を缶に充填する機械「詰太郎」。運搬が可能な地酒をその場で缶にできるため、気軽に日本酒を楽しむことができます。



Products

あらゆるシーンで 暮らしに寄り添う 「包む」製品

毎日の生活にも、ワクワクする時間にも、
そして災害時にも——。
東洋製罐の製品は、
いつも暮らしのそばにあります。

缶・PETボトルのシェア

国内**1**位

缶	PETボトル※
約 40%	約 30%
※プリフォーム含む (当社調べ)	

製品の詳しい情報は
当社ホームページをご覧ください



For Beverage

飲料用

▶ TULC (タルク)

コーヒーやお茶、ジュースなど
さまざまな飲料に使われている
スチール缶。水を使わない成
形システムを採用しており、環
境にもやさしい製品です。

▶ DI缶

炭酸にも耐えられる強度を持ち、ビールや
炭酸飲料に使われているアルミ缶。胴部と
蓋の2つのピースから構成されています。



▶ スティオンタブ (SOT) 蓋

タブが散乱しないステイ・オン・タブを
採用。内容物に合わせてさまざまな蓋を
ラインナップしています。

▶ 耐熱用PETボトル

ホットパック充填 (高温充填) に対応で
きる、耐熱性に優れたPETボトル。お茶
やスポーツドリンク、果汁飲料など、さま
ざまな清涼飲料に使われています。



▶ プリフォーム

お客様におけるPETボトルの内製化に
も対応し、PETボトルの原型となるプリ
フォームの販売を行っています。

For Food



食品用

▶ レトルトパウチ

保存性に優れ、カレーやパスタソースに使われるレトルトパウチは、当社が世界に先駆けて開発・実用化しました。電子レンジ調理が可能なタイプもあります。



▶ オキシガード

食品にとって劣化の原因となる酸素を遮断・吸収できる、保存性に優れた容器です。



▶ 食品用缶

内容物に応じて、業務用から家庭用までさまざまなサイズ・形状を取り揃えています。



For Daily Life



生活用



▶ フロスパウチ

立体成形により注ぎやすさを実現した詰め替え用パウチは、ゴミの減容化にも寄与。洗剤やシャンプーなどで使われています。

▶ エアゾール缶

内容物を霧状・泡状にして噴射できるエアゾール缶は殺虫剤やヘアスプレー、消臭剤に使われています。



Facility



充填設備



▶ NEOS (New Easy Operation System) シーマ

機械本体と制御盤・操作盤・ユーティリティボックスがひとつになったオールインワン設計。独自の特許技術によりオイル漏れを防ぎます。

充填設備の詳細は、当社のグループ会社である東洋製罐グループエンジニアリング株式会社ホームページをご覧ください



Manufacturing Capability

未来をひらく、ものづくりの力

より豊かな暮らしを実現するために、容器にできることはもっとあるはず。
容器本来の「包む」という役割を超えて、私たちは新たな可能性を拓き続けていきます。



製缶システムの常識を覆す 「aTULC (エータルク) コンパクトライン」

飲料メーカー側で容器製造と充填を一貫して行うことで、空缶輸送にかかるコストやGHG排出量を削減することを可能にします。



高品質で環境にもやさしい 「CBR (Compression Bottom Reform) 超軽量ADI缶」

高い缶底耐圧強度と軽量化を両立しました。底部のアルミ材使用量を大幅に削減したことで、GHG排出量を低減します。



何度でも生まれ変わる 「Lumisus (ルミサス)」

水平リサイクル可能なアルミ素材に独自の技術を用いて開発・実用化した飲料用アルミカップです。軽くて丈夫なアルミカップは手に持った瞬間、口に当たった瞬間に清涼感を楽しむことができ、スポーツ観戦にも最適です。

ドローン用遠隔型スプレー缶 噴射装置「SABOT-3」

これまで空撮が主な用途であったドローンに着目し、空中からスプレー缶の噴射を可能にしました。構造物の軽補修作業や、点検時のマーキング作業、鳥害対策など、幅広い目的で使用することができます。



Environmental Activity

地球環境をやさしく「包む」取り組み

世界中で365日消費される容器だからこそ、環境配慮の一步は地球規模でみると大きな前進へとつながると信じています。

私たちは容器の価値を高めるだけではなく、「生産」「流通」「消費」「回収・再生」の各プロセスを通じて環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の実現に貢献するために新しい仕組みづくりに挑み続けます。

■環境理念

東洋製罐グループは地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細かい配慮を行いつつ、人類の生活文化の向上に貢献します。

■環境ビジョン

東洋製罐グループは、固有技術の結集と世界の技術の活用により、私たちが提供する製品・サービス・システムのバリューチェーンにおいて、「脱炭素社会」「資源循環社会」「自然共生社会」の3つの側面から持続可能な社会の実現に貢献します。

中長期環境目標「Eco Action Plan 2030」

2019年度に制定した「Eco Action Plan 2030」は、気候変動への対応、資源循環への積極的な関与、海洋プラスチックごみ問題に代表される生物多様性の保全に取り組み、SDGsの目標年である2030年に向けて、東洋製罐グループとして達成すべき指標を定量化した環境目標です。環境負荷を低減するための施策を具体化して実効性を高め、実現に向けた取り組みを着実に推進していきます。

Eco Action Plan 2030による環境への貢献

脱炭素社会 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて

事業活動での
GHG排出量 (Scope1+2)

50% 削減 (2019年度比)



サプライチェーンでの
GHG排出量 (Scope3)

30% 削減 (2019年度比)

なお、本目標は国際的なイニシアチブであるSBT (Science Based Targets) の新基準「1.5℃目標」の認定を取得しています。

※SBTイニシアチブ：企業のGHG削減目標が科学的な根拠と整合したものであることを認定する国際的なイニシアチブ

資源循環社会

枯渇性資源の
使用量

30% 削減 (2013年度比)

プラスチック製品の
化石資源の使用量

40% 削減 (2013年度比)

自然共生社会

事業活動における取水量

売上高原単位で前年度比 **1%** 改善



Research and Development

研究開発体制

市場ニーズを正確に掴み、蓄積した技術と人の力で形にしていく。
グループシナジーも加わる盤石の体制で新たなイノベーションが生まれています。

開発理念



人、モノ、社会、世界、環境等、自分、自社以外を指す言葉としてOthers。自分、自社のためだけでなく、周りの人、社会、環境のために開発してこそ、持続可能な開発となる。

ビジョン

環境貢献と顧客ニーズに応え、常に進化を意識した新しい価値を適切な価格でスピードを持って提供し、業界をリードする頭脳・技術集団になる。



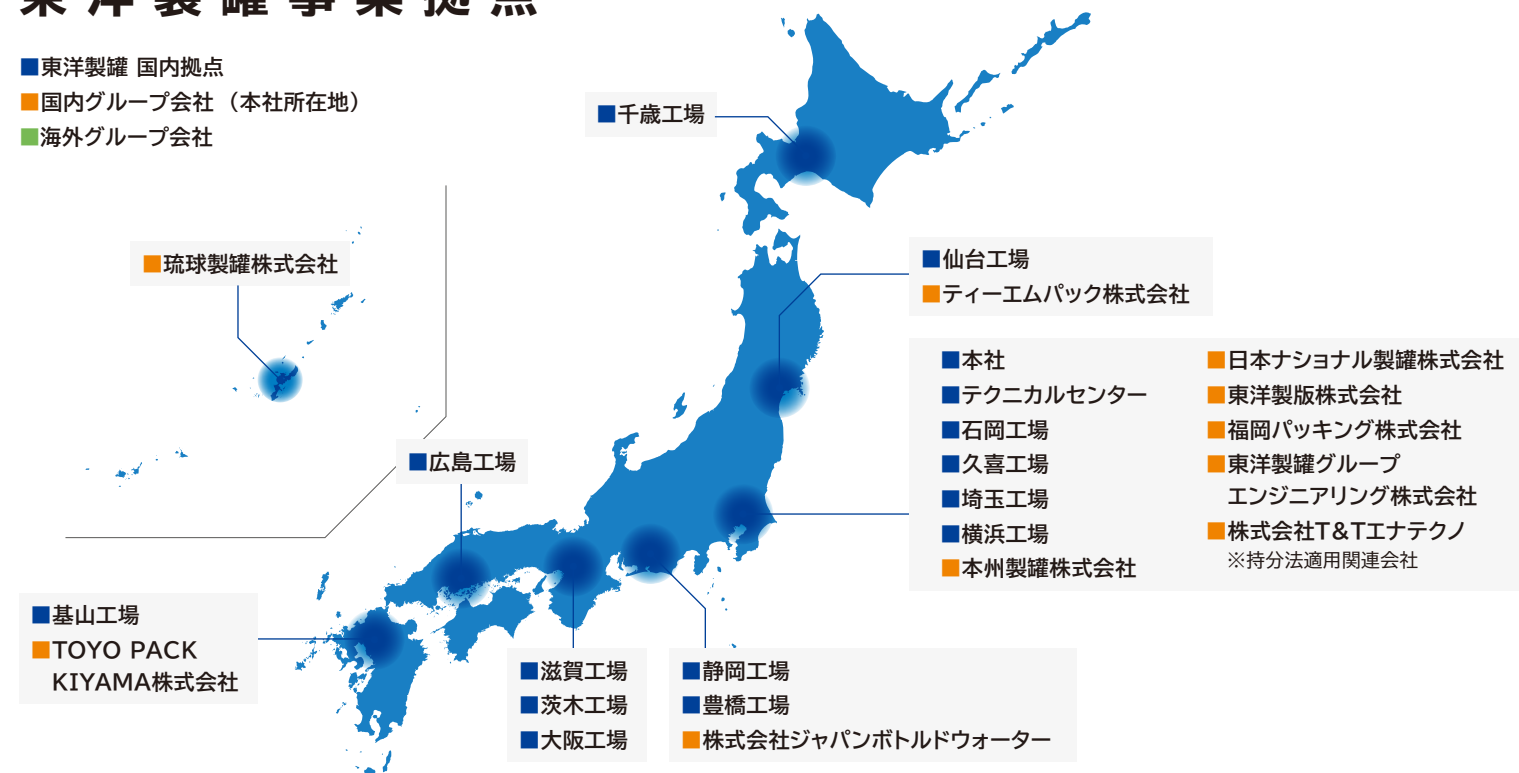
Domestic and Overseas Bases

東洋製罐事業拠点

■東洋製罐 国内拠点

■国内グループ会社（本社所在地）

■海外グループ会社



詳しい情報は
当社ホームページをご覧ください



会社概要

商号 東洋製罐株式会社
(Toyo Seikan Co.,Ltd.)

創立 2012年6月25日

代表者 取締役社長 本多 正憲

資本金 1,000百万円

本社所在地 〒141-8640
東京都品川区東五反田
二丁目18番1号
大崎フォレストビルディング

東洋製罐は、1917年に創立しました。
2013年4月1日、持株会社体制へ移行したことに伴い、商号を「東洋製罐グループホールディングス株式会社」へ変更し、グループ経営管理事業を除くすべての事業を「東洋製罐分割準備株式会社（同日付で「東洋製罐株式会社」へ商号変更）」へ承継しました。

我社の根本方針

一、我社の目的は人類を幸福ならしむる結果を齎す所になければならぬ。

二、事業は営利が目的でなく利益は結果であり目的でない。

三、自己の受持により各自が奉仕の精神を尽し此の精神を団体的に発揮する事に努め、自己の繁栄をねがうと同様に関係業者の繁栄に努力しなければならぬ。

タイ

- Bangkok Can Manufacturing Co., Ltd.
- Next Can Innovation Co., Ltd.
- Toyo Seikan (Thailand) Co., Ltd.
- Global Eco-can Stock (Thailand) Co., Ltd.
- Kanagata (Thailand) Co., Ltd.

ベトナム

- Asia Packaging Industries (Vietnam) Co., Ltd.



トップメッセージ

イノベーション
の歴史

製品情報

ものづくりの力

環境への取り組み

研究開発体制

事業拠点

東洋製罐株式会社

〒141-8640 東京都品川区東五反田二丁目18番1号 大崎フォレストビルディング
TEL 03-4514-2300
FAX 03-3280-8120
<https://www.toyo-seikan.co.jp/>

東洋製罐株式会社のHPはこちら 

UD FONT
by MORISAWA